

社会貢献活動の基本的な考え方

当社およびグループ各社は、金融グループとしての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。一方で、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための『良き企業市民』としての活動も欠かせません。当社およびグループ各社は、『良き企業市民』として社会的責任を果たすべくさまざまな社会貢献活動も行います。

社会貢献活動方針

当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての役割を認識し、豊かで持続可能な社会の実現を目指し社会貢献活動を行います。この社会貢献活動を積極的に行うため、企業で活動を企画・実施するとともに、社員のボランティア活動を支援します。

社会貢献活動の柱

当社およびグループ各社は、以下の4つの分野を社会貢献活動の柱としています。

福祉活動、地域・国際社会、環境活動、文化・芸術・教育

福祉活動

●手話講習会の開催

三井住友銀行では、聴覚に障がいのある方への理解と店頭でのお客さまサービスの向上を目的とする有志社員を対象とした手話講習会、手話講演会を行っています。平成21年度の1日手話入門講座には三井住友カード・日本総合研究所・SMBCフレンド証券の社員も参加しました。また、平成21年度には、初歩的な手話を交えながら、障がいのある方を含む周囲への気づきや配慮などを学ぶコミュニ



ケーション研修を開催し、グループ各社、日興コーディアル証券グループ社員も参加しました。

●ボランティア体験講座、団体献血の開催

三井住友銀行では、平成21年度に生物多様性を学ぶ環境講座を開催し、社員と家族が参加したほか、ボランティアに関する各種情報を社員に案内し、積極的な参加を呼びかけています。また、三井住友銀行、三井住友カードでは、職場での団体献血を実施しました。

●書き損じはがき、テレホンカード、切手等の募集・寄贈

当社では、グループ各社の社員から「書き損じはがき」を募集し、通信費としてボランティア団体に寄贈しています。

また、三井住友銀行では「未使用テレホンカード」、三井住友ファイナンス&リース・SMBCフレンド証券では「ペットボトルのキャップ」、三井住友カード・SMBCフレンド証券では「使用済み切手」、三井住友カードでは「使用済みプリペイドカード」を社内で収集し、寄贈しています。

●寄付型自動販売機の設置、福祉団体等販売会の開催

三井住友銀行では、飲料を購入すると福祉団体に寄付が行われる仕組みの自動販売機を本店ビルに設置しています。また、障がい者就労施設や国際協力団体等の製品販売会を継続的に行っています。

●高齢者支援団体への寄付

SMBCフレンド証券は、社会貢献型ファンドの収益金の一部を、高齢者福祉・介護の理念にかなう団体に寄付しました。

Topics

◆東京都福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状を受領しました

三井住友銀行は、平成22年1月、東京都の福祉のまちづくりに貢献しているとして、東京都知事より感謝状をいただきました。これは、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルサービスを掲げ進めている同行の各種取り組みを評価していただいたものです。

地域・国際社会

●ボランティア基金

三井住友銀行では、有志社員の給与から毎月一律100円を天引きして、複数ボランティア団体等への寄付を行っており、1万2千名超が加入しています(平成22年7月現在)。以下は、平成21年度に行った寄付事業計27件の一部です。

<海外>

- *カンボジアの孤児院新設にかかる費用
- *ラオスでの学校図書室の開設
- *パキスタンへの帰還難民を対象とした診療所運営
- *ネパールの子どもが学校に通うための地域活動支援
- *ミャンマーの障がい者や高齢者など最も弱い立場にある人びとへの生活支援
- *スーダン南部における学校の水の衛生改善事業
- *バングラデシュにおけるマイクロファイナンス(小口融資)等の収入向上等支援活動
- *ブルキナファソにおける、小学校の学校給食の提供
- *インドネシアにおける中高生の奨学金、および乳幼児を対象とした保健プログラム等

<国内>

- *終末期にある小児難病児とそのご家族の思い出づくりの旅行
- *ろう学校における、劇団員と子どもたちとの交流
- *補助犬候補のパピー(仔犬)の育成にかかる、食費、獣医療費、しつけ教室等

あわせて、スマトラ沖地震、フィリピン台風、サモア地震津波、ハイチ地震、国内では、中国・九州北部豪雨、台風第9号への義援金寄付も行いました。

グループ会社のさくらケーシーエスでも平成21年度より社員の約8割に当たる約9百名がボランティア基金に加入し(平成22年6月現在)、兵庫県の緑化事業、がん予防の啓発活動、開発途上国の子ども支援への寄付を行いました。



●大規模災害発生時の義援金口座の開設、寄付等

三井住友銀行は、国内外の大規模災害発生時に、振込手数料無料の口座を開設しお客さまより広く募金を受け付けるとともに、行内、日興コーディアル証券を含むグループ各社社員への呼びかけも行いました。平成21年度は、中国・九州北部豪雨、台風第9号、フィリピン台風、サモア地震津波、スマトラ沖地震、チリ地震、ハイチ地震の義援金口座を開設しました。三井住友カードは、ハイチ地震の際、カード決済による募金を受け付けました。

●ボランティアスタッフYUI(ゆい)の活動

三井住友銀行では、社員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。ろう学校での交流会、社員から集めた日用品のチャリティー販売、高齢者施設の訪問等を継続的に行うほか、平成21年度はYUIの創立10周年を記念し、東京・大阪の会員が協働で、富士山での植林活動を行いました。



●全国拠点における地域貢献活動

三井住友銀行では、全国の営業拠点が自ら企画し地域社会に貢献する活動を推進しており、銀行見学会、支店周辺や野外での清掃活動、地域の祭りやイベントへの参加、世界の子どもたちの絵画ロビー展、ロビーコンサートなどを行っています。

日興コーディアル証券でも、全国の営業拠点で地域社会の発展を目指し、職場見学や体験、清掃活動などを行っています。



営業拠点周辺の清掃活動の様相
(日興コーディアル証券)

●海外拠点における取り組み

海外拠点において以下の取り組みを行っています。

- ・三井住友銀行(中国)有限公司における、蘇州大学や上海外国語大学などでの奨学金制度
- ・三井住友銀行香港支店における、アジアの若手音楽家によるオーケストラへの寄付
- ・三井住友銀行ソウル支店における、日本文化への理解促進を目的とした日本語演劇大会への寄付
- ・三井住友銀行バンコック支店における、ビジネススクールでの同行シニア・エコノミスト講義、近郊の貧困に苦しむ子どもたちを支援する施設への寄付
- ・三井住友銀行ハノイ支店における、無償で眼科治療を続けている日本人医師への寄付
- ・欧州三井住友銀行におけるボランティア休暇を利用した社員の活動。また、お客さま宛てのグリーティングカードを紙からe-cardへ切り替え、従来カード購入費相当額をチャリティー団体へ寄付
- ・日本総合研究所欧州拠点における日本語スピーチコンテストへの寄付



●ユニセフ(国際連合児童基金)等への支援

三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。同行の国内本支店・出張所の店頭に「外国コイン募金箱」を設置して協力を呼びかけ、集まった募金は各国通貨別に仕分けし、ユニセフに送っています。

また、普通預金の税引後利息を寄付する「ユニセフ愛の口座」を取り扱い、三井住友銀行でもお客さまと同額の寄付をしています。

三井住友カードは、ワールドプレゼントの景品を通じて、「ユニセフ」「ユネスコ」「WWF ジャパン」「WFP」に、同社をはじめVJAグループ各社カード会員から寄せられた寄付を実施しています。また、同社からもこの寄付にあわせて、ユニセフへの寄付を実施しました。また、「ユニセフVISAカード」や「赤い羽根VISAカード」など社会貢献型カードを発行し、各団体の活動資金として、カード利用額の一部を寄付・還元しています。

●TABLE FOR TWOへの参加

三井住友銀行は、社員食堂でヘルシーメニューを購入すると、1食当たり20円が開発途上国の学校給食1食分として、NPO法人「TABLE FOR TWO International」を通じて寄付される取り組みを、本店ビルで実施しています。また、あわせて健康飲料を購入すると同団体に寄付される仕組みの自動販売機も設置しています。

●財団を通じた取り組み

米国を本拠とするSMBC GLOBAL FOUNDATIONは、平成6年よりアジア各国で学ぶ大学生5,000名超を対象に奨学金を支給しています。また米国での地



域貢献活動として、ニューヨーク市ハーレムの高校が主催する日本研修旅行の支援、学校の美化活動への三井住友銀行・日本総合研究所社員によるボランティア参加、同社員が行う寄付への財団からの同額寄付等を実施しています。

三井住友銀行国際協力財団は、開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、平成2年の設立当初より毎年7～8名のアジアからの留学生に奨学金を支給しています。また、発展途上国に関する研究機関・研究者への助成を行っています。

環境活動

●環境保全活動への参加

当社では「SMFGクリーンアップデー」を定め、平成21年度はグループ各社の有志社員約130名が神奈川、兵庫の2会場で海岸清掃に参加しました。

また、SMBCフレンド証券では、千葉・兵庫の2会場で独自に海岸清掃活動を開催し約130名が参加したほか、三井住友ファイナンス&リース、日本総合研究所でも事業所周辺の継続的な清掃活動を行っています。

三井住友銀行では、東京都主催「海の森プロジェクト」の植樹イベントに有志社員が参加し、あわせて寄付も行いました。



●SMBC環境プログラム C・C・C富良野自然塾

三井住友銀行は、脚本家の倉本聰さんが北海道の富良野で実施する、閉鎖されたゴルフ場の跡地を元の森に回復させる活動を支援しています。ここでは、五感で自然を体感する環境教育を行っており、有志社員と家族が参加する現地体験ツアーもあわせて実施しています。



●生物多様性について学ぶ環境講座の開催

三井住友銀行は、平成21年度、生物多様性について学び、身近な緑化への取り組みとして「どんぐりキューブ」をつくる体験講座を、東京・大阪・名古屋で開催し、社員と家族が参加しました。講師は、同行も主催の一つである環境をテーマとしたコンテスト「eco japan cup 2007」において環境ビジネス・ベンチャーオープン「三井住友銀行賞」を受賞した株式会社アネックス5×緑(ゴバイミドリ)事業部より招きました。



●「環境フォト・コンテスト」への協賛

三井住友ファイナンス&リースは、環境問題の大切さを伝え行動を喚起することを目的とする写真コンテストに協賛し、「三井住友ファイナンス&リース賞」を贈呈しています。

文化・芸術・教育

●チャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」の開催



三井住友銀行では、平成18年度より毎年、戦争や災害などで傷ついた世界の子どもたちを支援するためのチャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」を開催しています。行内の音楽クラブである合唱団・室内合奏団・吹奏楽団が、クラシック、日本の歌曲、アニメソングなど、子どもから

大人までが楽しめる多彩な音楽を演奏し、会場では募金受付や世界の子どもたちから寄せられた絵画の展示、社員の手づくり品のチャリティー販売などを行っています。

●こどもイラストコンクールの開催

三井住友銀行では、平成19年度より、小学生を対象にイラストコンクールを行っています。平成21年度は「ぼくとわたしの『エコな未来』」をテーマに実施し、こどもたちの独創的でエコなアイデアが詰まったイラストが多数寄せられました。入賞者に応募作品入りのオリジナル通帳を作成したほか、入選作品集を同行の全支店に配布し、お客さまに閲覧いただきました。



●文化芸術事業の支援

三井住友カードでは、国立劇場・国立演芸場へのどんちゅう寄贈や子ども歌舞伎への公演協賛を通じ、古典芸能振興と人材育成を支援しています。

SMBCフレンド証券では、山種美術館で開催された「速水御舟展」への特別協賛を通じて、文化・芸術活動を支援しています。

●金融経済教育への取り組み

三井住友銀行は、銀行見学会の開催、書籍「銀行のひみつ」の発刊、ホームページ上で金融教育ゲームの展開、お仕事体験タウン「キッズニア」への協賛、インターンシップの実施など幅広く金融経済教育活動に取り組んでいます。三井住友カード、日本総合研究所、日興コーディアル証券でも、大学への講師派遣等を行っています。また、日興コーディアル証券では、学生・一般の方に証券会社や証券投資に関する知識を深めていただくための企業見学・研修を行っています。

●インターンシップの実施

日本総合研究所は、学生が自己の職業選択について考える機会となるインターンシップを実施しており、参加した学生は環境やエネルギー分野における次世代の新しいビジネスを創り上げていく現場で、仕事への理解を深めています。SMBCフレンド証券でも、毎年インターンシップを実施しており、平成21年度は22名が金融商品や証券業務について学びました。